

この度、第 123 回あしぎん景況調査の結果がまとまりました。今回は定例調査とあわせて特別調査を実施させていただきましたので、別紙の通り発表させていただきます。今回のポイント及び概要は下記の通りです。

記

1. 今回のポイント

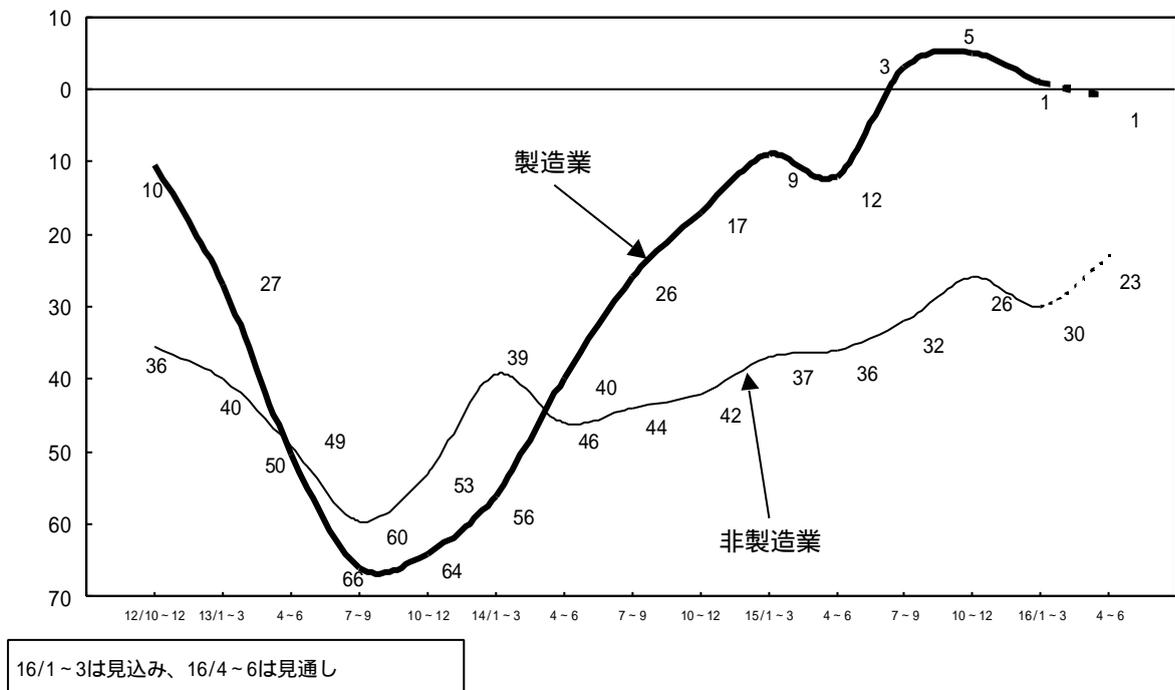
企業の景況感は、緩やかな回復基調にあるものの足元でやや一服感がみられる。

今期(16年1~3月期)の業況判断D.I.値は、製造業が1、非製造業が30となった。前期(15年10~12月期)に比べ、製造業、非製造業ともに4ポイント悪化した。

来期(16年4~6月期)は、製造業が1と今期に比べ2ポイント悪化するものの、非製造業は23と今期に比べ7ポイント改善する見通しである。

設備投資などで持ち直しの動きが続いているものの、個人消費など家計部門に力強さがみられないことから、企業の景況感の改善ペースは当面緩やかなものにとどまるとみられる。

業況判断D.I.値



2.特別調査のポイント

- (1)現在（平成 16 年 1 月）の自社の属する地域・業界の景気
 - ・「悪化した」と回答した企業が 50.7%となり、約半数の企業が未だに景気は悪化していると感じている。特に非製造業において景気回復の遅れは顕著である。
- (2)平成 16 年度の自社の属する地域・業界の景気
 - ・「悪化する」と回答した企業が 45.4%を占め、15 年度に引き続き景気は悪化傾向で推移すると見ている企業が多い。
- (3)平成 16 年度の日本経済
 - ・「好転する」と回答した企業が 33.0%を占め、「悪化する」と回答した企業の 20.9%を上回っている。地域経済とは対照的に、マクロの日本経済は景気回復基調で推移すると見ている企業が多い。
- (4)自社における今後の懸念材料
 - ・「デフレ不況による製品価格の下落」(35.6%)が最も多く、次いで「雇用・所得環境の悪化による個人消費の低迷」(34.8%)、「製造業の海外移転による受注減」(20.5%)の順となっている。製造業では「価格下落」を、非製造業では「個人消費の低迷」をあげる企業が多い。
- (5)北関東エリアにおける成長が期待される産業
 - ・「医療・介護関連」(41.7%)が最も多く、次いで「環境・エネルギー関連」(35.3%)、「情報・通信関連」(34.3%)の順となっており、今日の社会問題を反映している。
- (6)今後、進出したい産業
 - ・「環境・エネルギー関連」への関心の高さがうかがえる一方で、本業に特化する経営者の意識が強いようである。

3. 概要

(1) 製造業

業況

業況判断D.I.値は、今期（16年1～3月期）1と前期実績を4ポイント下回った。業種別にみると、金属製品、一般機械など4業種が改善したものの、木材・木製品、紙・パルプなど7業種が悪化した。

来期（16年4～6月期）は今期見込みを2ポイント下回る見通しである。

経常利益

前年比増減D.I.値の今期見込みは3と前期実績を5ポイント下回った。業種別にみると、精密機械、化学品など4業種で改善したものの、木材・木製品、プラスチック、輸送用機械など9業種で悪化した。

水準D.I.値の今期見込みは9と前期実績と同ポイントとなった。

設備投資

実施企業割合の今期見込みは72%と前期実績を5ポイント上回った。また、投資額D.I.値の今期見込みは33と前期実績を5ポイント上回った。来期は実施企業割合、投資額D.I.値ともに今期見込みを下回る見通しである。

雇用

前年比増減D.I.値の今期見込みは7と前期実績と同ポイントとなった。また、適正水準比D.I.値の今期見込みは7と前期実績を1ポイント上回った。

(2) 非製造業

業況

業況判断D.I.値は、今期（16年1～3月期）30と前期実績を4ポイント下回った。業種別にみると、運輸、建設が改善したものの、サービス、小売、卸売は悪化した。

来期（16年4～6月期）は23とやや改善する見通しである。

経常利益

前年比増減D.I.値の今期見込みは21と前期実績を5ポイント下回った。業種別にみると、小売を除きすべての業種で前期実績を下回った。

水準D.I.値の今期見込みは6と前期実績を8ポイント下回った。

設備投資

実施企業割合の今期見込みは49%と前期実績を3ポイント上回った。一方、投資額D.I.値の今期見込みは45と前期実績を7ポイント上回った。来期は実施企業割合、投資額D.I.値ともに今期見込みを下回る見通しである。

雇用

前年比増減D.I.値の今期見込みは18と前期実績を2ポイント下回った。一方、適正水準比D.I.値の今期見込みは2と前期実績を3ポイント上回った。

4. 調査結果

(1) 製造業

今期実績見込み (16年1～3月期)

・業況	(業況判断 D . I . 値)	1	前期比	-4	ポイント
・経常利益	(前年比増減 D . I . 値)	3	前期比	-5	ポイント
	(水準 D . I . 値)	9	前期比	0	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	72 %	前期比	+	5 ポイント
	(投資額 D . I . 値)	33	前期比	+	5 ポイント
・雇用	(増減 D . I . 値)	7	前期比		0 ポイント
	(適正水準 D . I . 値)	7	前期比	+	1 ポイント

- ・経営上の問題点「競争激化」、次いで「製・商品(サービス)単価の値下がり、値上げ難」、「需要減退」の順となっている

来期見通し(16年4～6月期)

・業況	(業況判断 D . I . 値)	1	前期比	-2	ポイント
・経常利益	(前年比増減 D . I . 値)	2	前期比	+	1 ポイント
	(水準 D . I . 値)	8	前期比	-1	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	66 %	前期比	-6	ポイント
	(投資額 D . I . 値)	26	前期比	-7	ポイント
・雇用	(増減 D . I . 値)	5	前期比	+	2 ポイント
	(適正水準 D . I . 値)	10	前期比	+	3 ポイント

(2) 非製造業

今期実績見込み (16年1～3月期)

・業況	(業況判断 D . I . 値)	30	前期比	-4	ポイント
・経常利益	(前年比増減 D . I . 値)	21	前期比	-5	ポイント
	(水準 D . I . 値)	6	前期比	-8	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	49 %	前期比	+	3 ポイント
	(投資額 D . I . 値)	45	前期比	+	7 ポイント
・雇用	(増減 D . I . 値)	18	前期比	-2	ポイント
	(適正水準 D . I . 値)	2	前期比	+	3 ポイント

- ・経営上の問題点「競争激化」、次いで「需要減退」、「製・商品(サービス)単価の値下がり、値上げ難」の順となっている

来期見通し(16年4～6月期)

・業況	(業況判断 D . I . 値)	23	前期比	+	7 ポイント
・経常利益	(前年比増減 D . I . 値)	13	前期比	+	8 ポイント
	(水準 D . I . 値)	8	前期比	+	2 ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	46 %	前期比	-3	ポイント
	(投資額 D . I . 値)	39	前期比	-6	ポイント
・雇用	(増減 D . I . 値)	16	前期比	+	2 ポイント
	(適正水準 D . I . 値)	5	前期比	+	7 ポイント